

## 日頃の教育に対する工夫、及び今後の教育への抱負

物質・生命化学科 吉見 泰治

今年の3年生の皆さんとは、有機化学I（1年生）と有機化学III（2年生）、3年生での学生実験の2回分とで関わりがありました。特に、有機化学Iでは退職された先生の代わりに初めて担当した学年にあたり、適切に教えることが出来ていたのか少し心配しましたが（必修の授業なのに結構な学生が単位を取れてなかったのに）、今回のことで選んでいただき、少し安心しました。

今年度はこれらの授業に加えて、1年生前期の化学基礎の3分の1を教えており、高校で学んだ化学と大学で学ぶ化学との繋がりや違いを意識しながら教えています。最近の高校の教科書を見ますと、「発展」において、大学で学ぶ内容にかなり触れています。場合によっては「発展」の内容を理解していれば、大学1、2年生で学ぶ専門科目（有機化学）も必要ない感じがします。受験にあまり関係がないので、このような「発展」部分を踏み込んで教えている高校はほとんどないとは思いますが、高校生時代に理解した部分を強化しつつ、大学における勉学へスムーズに入れる工夫が、さらに重要になってくるだろうと考えています。「発展」で示されている内容の深い理解とその応用ができれば、大学の学部の授業はある程度成功したと考えられるぐらい高校の教科書は進化しています。一度、最新の高校の教科書を見ることをお勧めします。それによって、教えるべき内容を少し変えてもいいかもしれません。

有機化学は高校の化学の最後の方に少し教えてもらった学生がほとんどで、受験のために少し勉強しただけだと思います。しかし、大学を卒業する頃には高校の教科書の「発展」部分が当たり前理解できる学部教育が出来ればと思います。